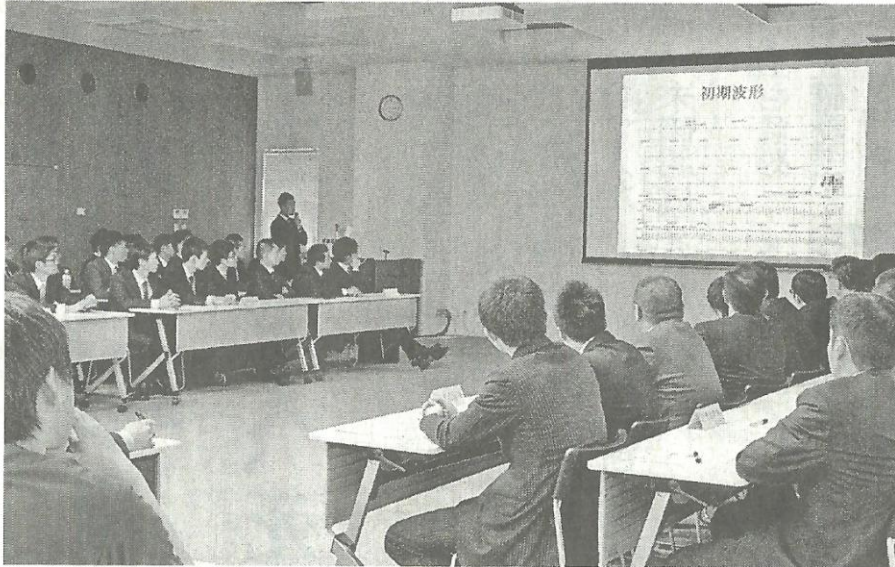


【6月25日(木) 北海道新聞(夕刊) 11面】

救急事例を報告し、改善策などを話し合った検討会



## 製鉄記念室蘭病院

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院で24日、本年度第1回の救急症例検討会が開かれた。認知症の救急患者の対応など、事例をもとに救急搬送のあり方を話し合った。

(芝垣なの香)

# 適切な救急搬送とは

## 医師や消防署隊員ら 事例もとに対応検討

同病院の医師のほか、室蘭、登別、伊達、白老の各消防署の救急隊員ら約70人が参加。前田征洋病院長は同病院に救急搬送される人数は年々増加しているとし、「救急診療は重点項目。満床による転送事例をなるべく減らしたい」と述べた。

検討会では四つの事例を紹介。認知症患者で「呼吸が苦しい」と訴える高齢女性の救急搬送事例について、同病院の医師は「認知症患者の場合、本人の話だけではなく、客観的な診察が大切」と助言した。このほか、白老で危険ドラッグを吸引し交通事故を起こした男性など、同病院で治療した事例紹介があった。

また、昨年10月に同病院に着任した木原美奈子・小児科主任医師が前任地だった京都府の病院での事例を説明。保育器を搭載したドクターカーも写真で示した。